

# 小・中学校における働き方改革 「取組事例集」



埼玉県マスコット「コバトン」

令和3年1月20日（水）

埼玉県教育局市町村支援部小中学校人事課

# はじめに

埼玉県では、『学校における働き方改革を推進し、学校教育の質の維持向上を図る』ことを目的とした「学校における働き方改革基本方針」令和元年9月に策定しました。

また、市町村教育委員会においても同様の基本方針を策定し、教職員が子供たちの指導に専念できるよう教職員の多忙化解消・負担軽減を進め、教育の質の維持向上に取り組んでいただいておりますことに感謝申し上げます。

本事例集は、市町村教育委員会訪問や学校訪問等で提供のあった好事例を中心に紹介しております。是非、学校現場や教育委員会において、本事例集を御活用いただき、導入できる取組については積極的に導入するなど、各学校における働き方改革が推進されるようお願いいたします。

## 目次

### 1 教育課程等に関する取組

ア 日課表の工夫に関する取組	エ 夏季休業における取組
イ 年間計画の工夫に関する取組	オ その他の取組
ウ 指導体制の工夫に関する取組	

### 2 会議に関する取組

ア 会議全般に関する取組	ウ その他の取組
イ 職員会議に関する取組	

### 3 学校行事に関する取組

ア 運動会及び体育大会に関する取組	ウ 家庭訪問に関する取組
イ 集団宿泊的行事に関する取組	エ その他の行事等に関する取組

### 4 教職員の出張等に関する取組

### 5 P T A活動に関する取組

### 6 学年・学級事務に関する取組

ア 各種たよりに関する取組	エ 通知表等に関する取組
イ 自己評価シートに関する取組	オ 教務や担任外等と協力した取組
ウ 授業準備等に関する取組	カ その他の取組

### 7 留守番電話に関する取組

### 8 出退勤管理に関する取組

### 9 部活動に関する取組（中学校）

### 10 その他の取組

# 1 教育課程等に関する取組

## ア 日課表の工夫に関する取組

- 月曜日・木曜日に、清掃・昼休みの時間を短縮し、児童下校後の諸活動の時間を20分間から50分間と拡充した。
- 業前活動を週1日に縮減した。
- 月・木は日課表を工夫し、15:15に児童を完全下校させ、15:25より職員会議等を実施。その他の曜日には会議を入れないこととした。
- 清掃と昼休みのない短縮日課を週2回設け、業前に清掃時間を設定した。
- B日課表を作成し、NO会議週間とする。その間を年休取得推進期間とした。
- 毎週水曜日をリフレッシュデーとし、朝学習と清掃活動をなくし、部活終了時刻も30分早めている。同日には会議を設定しない。
- 学年・学級事務に係る時間を日課表に明記し(週165分) 確実な確保に取り組んだ。
- 各学期末に1週間、朝の活動をなくすとともに、放課後に会議を入れない日課を定め、事務処理の時間を確保した。
- 完全下校時間を早めた。
- 朝読書の廃止、清掃時間の短縮により、日々の終業時間を15分間短縮した。
- 毎週水曜日(ノー残業デー)の日課を変更し、原則、放課後の部活動や会議を廃止し執務時間を確保した。

## イ 年間計画の工夫に関する取組

- 有料の芸術鑑賞会を廃止したことによって生じた授業時間を活用し、学期末短縮日課の前倒しを行った。
- 授業参観の回数を精査するとともに、学校公開の短縮を図った。
- 期末中の児童の早帰り期間の拡充を図った。
- 三者面談を課業日から長期休業日へ移行した。

## ウ 指導体制の工夫に関する取組

- 高学年で、教科担任制(交換授業を含む)を実施した。
- 6年生に教科担任制を導入し、3～5年生では出授業を増やし教材研究の負担の軽減を図った。
- 国語の漢字の学習内容を「朝の学習(15分)」に入れ、15分×3日で、1時間でカウントした。
- 学年内の交換授業を行い、担当する教科数を減少させた。

## エ 夏季休業における取組

- 熱中症から児童を守る為、夏季休業中のプール学習を取りやめた。
- 夏季休業日の補習や図書館開放を中止した。
- 夏季休業中の図書当番は、支援員や保護者の協力を得て実施した。
- 登校指導日を削減した。

## オ その他の取組

- 1学期の中間テストを廃止した。
- 定期テストの回数を1回減らし、授業中に単元テストを実施した。
- 予備時数の多い、2・3年の授業時数の見直しを行った。
- 低学年の下校体制の簡素化を図った。
- 日直を置かない日（開校記念日・県民の日・8/11～16）を設定した。

## 2 会議に関する取組

### ア 会議全般に関する取組

- 会議の削減と資料のペーパーレス化を図った。
- 会議資料は、パソコン画面で確認し、資料の印刷・製本の手間を省いた。
- 会議を、通常の会議（原則：1時間以内）とショート会議（15分以内）に分類し、効率化を図った。
- 会議出席メンバーの削減。
- 会議の回数を、1月当たり最低1回を削減した。
- 校内の各種会議の精選。（生徒指導、特別支援教育、企画）
- 拡大企画委員会で、学期ごとに学校行事等の見直しを行う。

### イ 職員会議に関する取組

- 職員会議などの会議における協議事項の削減や時間の制限（質問のみ、報告のみと分類）。
- 職員会議では、「説明あり議案」と「資料のみ議案」に分けて時間の短縮を図った。
- 職員会議の審議内容の焦点化。
- 議題を、A提案：説明協議、B提案：説明のみ、C提案：資料提示のみに分類し、効率化を図った。
- 職員会議等の終了時間を明確に示し、1時間以内に終了させる。
- 学校行事の職員会議提案は4月に1年分を提案。
- 校内の電子掲示板を積極的に活用し、職員会議で行っていた事務連絡については掲示のみとした。

### ウ その他の取組

- 生徒指導委員会や教育相談部会への参加者の削減（最大で、学年1名）を図った。
- 運営委員会を毎週開催から、月1回の開催へ削減した。
- 職員会議などの会議及び朝の集会の削減を図った。（月・金のみ）

## 3 学校行事に関する取組

### ア 運動会及び体育大会に関する取組

- 運動会応援旗作製を取りやめ、応援合戦時間も短縮（練習時間も含め）した。
- 運動会のダンス練習や鼓笛練習の時間の削減を図った。

- 運動会の種目数を削減し、半日開催とした。
- 行事ごとに作成しなくてよい看板に工夫し、運動会準備の縮減を図った。
- 校内長距離走大会（ロードレース大会）を廃止するとともに、体育祭の内容について縮減した。
- 強歩大会を廃止した。
- 対外行事（市内球技大会、市内陸上競技大会）に向けた放課後の練習時間を縮小した。
- 学校外の体育的行事については、曜日を定めるなど練習期間及び練習時間を縮減した。

#### イ 集団宿泊的行事に関する取組

- 小学校の林間学校を課業日に実施し、1泊とした。
- 保護者の理解を得て林間学校を廃止した。
- 全校遠足を廃止した。
- 4年生及び5年生の林間学校を廃止した。
- 低学年の徒歩遠足を廃止した。

#### ウ 家庭訪問に関する取組

- 家庭訪問や個人面談は4時間授業。学期末10日ほど前から5時間授業とし、事務時間を確保する。
- 家庭訪問は1・2年生のみとし、他の学年は地域訪問として実施した。
- 家庭訪問を廃止し、地域訪問とした。
- 家庭訪問を表札訪問に変更し、担任との面談を希望する保護者については、教育相談日に二者面談を実施した。
- 家庭訪問を廃止し、夏季休業で三者面談を実施。

#### エ その他の行事等に関する取組

- 音楽会を廃止し、歌声朝会の公開に変更した。
- 学校祭と合唱祭を統合し、文化祭として実施した。
- 離任式を廃止した。
- 児童集会を廃止した。
- 音楽集会や群読集会を廃止し、学習の習熟の時間を確保した。
- 硬毛筆練習期間の短縮を図った。
- 卒業式の練習時間を縮減するとともに、式の簡略化により時間短縮を図った。
- 学校行事などの写真販売をインターネット注文とし、事務負担の軽減を図った。
- 卒業を祝う会における卒業記念ビデオを廃止した。
- 全校朝会の縮減と放送による朝会を実施した。
- 生徒指導委員会の回数削減、生徒朝会の持ち方変更、三送会など生徒会行事の見直しと削減を図った。

- 学年行事を学校行事の一つと位置付け、データ等の共有化を図った。
- 学年会の定例化及び効率化を図った。(毎週水曜日に実施し、毎日集まることはなくなった。)
- 長期休業中の研修・会議・パトロール・生徒学習会の削減を図った。
- 企画委員会で職員の勤務状況について確認し、組織的に対応した。

#### 4 教職員の出張等に関する取組

- 芸術鑑賞会を廃止したことによって生じた授業時間を活用し、学期末短縮日課の前倒しを行った。
- 授業参観の回数を精査するとともに、学校公開の短縮を図った。
- 月曜日・木曜日に、清掃・昼休みの時間を短縮し、児童下校後の諸活動の時間を20分間から50分間と拡充した。
- 出張が偏らないよう主任、副主任で分担して出張を命じた。
- 地域行事への参加の当番制を導入した。
- 出張内容及び職員の出張回数を検討し、代理職員の出張参加により、一部の職員の偏りを作らないよう配慮した。
- 出張回数を大幅に見直し、20%の削減を目指した。

#### 5 P T A活動に関する取組

- P T A行事の内容の見直しと精選を図った。
- 学校行事日にP T A理事会等を設定し、昼間の開催とした。
- P T A活動の見直しを図り、合同パトロールを廃止した。
- P T A主催の廃品回収への参加を任意とせず、参加日の割振りを行った。
- P T Aバザーを廃止した。
- 保護者会及びP T A総会の見直し、時間や回数、出席者の規模の縮小を図った。
- 毎月の集金をP T Aに依頼し、教員の負担を軽減した。
- 地域やP T Aの行事へ参加する職員をローテーション化し、負担の平準化を図った。
- 学校支援地域本部と連携し、職場体験の事業所選び及び調整を依頼した。
- 土日の町内会の夏祭りの巡回は、管理職のみで行い、教職員の巡回を廃止した。
- 月1回の登校指導は教職員が実施し、放課後の防犯パトロールは地域に依頼した。
- 登校指導は、地域及び保護者が実施し、教員は下校指導のみを行うようにした。

#### 6 学年・学級事務に関する取組

##### ア 各種たよりに関する取組

- 学級通信を廃止し、学級の様子は学年通信に掲載した。
- 学年だよりを廃止し、学級だよりを一本化した。
- 学年だよりを廃止し、各学級の週報に学園共通コーナーを作成し、負担軽減を図った。
- 学年だより等は学校内で統一した様式で発行し、学年間の共助を図った。
- 学級通信の簡素化。A4両面から片面へ、掲載する内容も週予定のみとした。

- 月ごとの保健だよりを廃止し、時期に応じた発行とした。
- 家庭への情報発信はHPとマチコミメール、学校掲示で行うようにした。
- 学習プリントや学年だよりをデータ化し、次年度に引き継げるよう整備した。
- 学年、学級だよりの発行回数の縮減を図った。
- 発出文書の2割削減にむけて取り組んだ。(学級便りの廃止、学年だよりの充実)

#### イ 自己評価シートに関する取組

- 自己評価シートの学年・学級経営欄への記入をもって、学級経営案を廃止した。
- 学年・学級経営案を廃止し、自己評価シート、毎月の経営プログラムに集約した。
- 学級経営案を見直し、自己評価シートに反映できるものは削除した。
- 自己評価シート欄に「私の働き方改革」の欄を設け、目標の日常化を図っている。

#### ウ 授業準備等に関する取組

- チームで道徳資料を作成し、ローテーション授業を実施した。
- 図工等の掲示作品の朱書きコメントを廃止した。
- 夏休み作品展の実施方法を改善し、作品への教師コメントを廃止した。
- 過去に作成した教材・教具のストック・分類し、見える化を図った。
- 手作り資料の共有財産化を図った。(主に道徳の場面絵や自作資料)

#### エ 通知表等に関する取組

- 1学期通知表の所見をなくし、児童の様子は夏季休業中の保護者面談で伝える。
- 通知表の所見記入を3学期のみとし、学級担任の負担を軽減した。
- 通知表の所見欄を廃止し、生徒の様子は面談で伝えることとした。
- 通知表等の所見の簡略化(スペースの縮小等)を図った。
- 1・2学期の通知表の所見を省略した。

#### オ 教務や担任外等と協力した取組

- 登校渋りの児童への朝の電話連絡や家庭訪問について、管理職も関わることで担任の負担を軽減した。
- マークシートスキャナーを導入し、生徒・保護者アンケート等の集計の短時間化を図った。
- 硬筆展の代表練習の廃止、書初め練習を外部指導者へ依頼。
- 職員室に学年の書棚を整備したり、資料室の整理を随時行ったりすることで、業務の効率化を図った。
- ノートやワークテストの確認を教務部でも分担している。
- 他校で活用している資料の提供を受け、自校用に修正して活用した。
- 週案簿の形式を統一し、共有データ化した。
- 学校日誌をデジタル化し、週報、月報、年間行事予定と連動させ、負担軽減を図った。
- 教員個人が作成した指導案や教材の分類・共有化を図った。

- 全校共通のファイル管理表を作成し、市教委との共有フォルダを活用している。
- 通知表・成績一覧表・週案簿等の電子化に加え、令和2年度より学校日誌・出席簿・指導要録を電子化し、運用を開始した。
- 職員の分掌・学年個人分担を一覧にして仕事分担を明確にし、複数体制の分掌と軽微なものは主任のみで進めるようにした。
- アンケートの集計、宿題の点検、テストの採点業務は、担任外と分担して行う体制を整備した。

## カ その他の取組

- 学級費を廃止し、集金及び会計報告書作成の負担を削減した。
- 児童作品募集などは可能な限り限定した。
- 生徒日記の教員コメントを必要最低限となるよう指導を行った。
- 教材業者と調整し、保護者から徴収する年間の集金回数を年2回とした。

## 7 留守番電話に関する取組

- 留守番電話の導入に伴って、学校における電話対応な可能な時間を全保護者に周知した。
- 原則、朝7：30前、放課後18：30以降の外部からの電話対応は行わない。
- 学校の電話応答時間を設定し保護者に広報した。

## 8 出退勤管理に関する取組

- 最早入校時刻（7：00）と最遅退校時刻（小：20：00 中：20：30）を設定した。
- 音楽を流すことで休憩時間や退勤時間を知らせ、時間を意識した働き方を促した。
- 児童の登校時間の適正化を図り、職員の出勤時間を遅らせた。
- 朝マラソンを廃止した。
- 朝のライン引きは、体育部だけでなく当番制にし、調整の対象とした。
- 勤務時間前の校庭ライン引きや登校指導は、申請用紙で管理職へ提出し、後日調整で対応した。
- 出退勤記録を基に、在校時間をグラフ化したものを教頭が定期的に配布し、効率的に仕事をしようとする職員の意識が高まった。
- 月別在校時間（全体・個人、昨年度との比較）を視覚化し、教職員に配布することで、教職員の働き方の意識向上を図った。
- 校舎セット時刻を徹底した。（20：30）
- 学年職員で個々の勤務状況を共有する時間を設け、年休等の計画的取得促進を図った。

## 9 部活動に関する取組（中学校）

- 毎週水曜日は、朝練習を含めて部活動なしとした。
- 朝練習は原則行わないこととした。（大会の1ヶ月前に限り、校長の許可を得て実施。）



- 年度初めの朝練習を廃止した。
- 部活動の朝練習を廃止した。
- 生徒や保護者と話し合い、参加する大会やコンクールの精選を図った。
- 夏季休業中の活動日数の上限を設定した。(休業日数の3/5)
- 延長練習できる大会を設定した。
- 学校閉庁日は、全校で部活動を実施しないこととした。
- 部活動の複数顧問制を拡充させるとともに、部活動の適正規模を検討している。
- 部活動顧問の複数化を完全実施。交代で休める環境整備を図った。
- 部活動について、毎月活動予定表を作成させ、前月の15日までに提出させ、管理職が確認をしている。
- 部活動の毎月の計画を生徒、保護者に公表し、校長が把握している。
- 大会等に参加し、部活動を土日行った場合は、翌日の月曜日の部活動をなしとし、水曜日の部活動なしの日と併せ、週2日は部活動を行わない日とした。

## 10 その他の取組

- ふれあいデーの日は、16:40に「ほたるの光」を流し、17:00には全員退勤している。
- 各月の1日、11日、31日もふれあいデー同様に定時退勤を呼びかける。
- 週2回無言で仕事をする「集中タイム」を設定した。
- 校務分掌の廃統合等の見直しを行った。
- 学校への配布物の精選や30部ごとの束での配布について、市役所へ依頼した。
- 市や関係団体等が主催する展覧会、作品展等への参加縮減を要請した。
- 帰宅前の整理・整頓時間を設け、事務処理の効率化を図っている。
- 「ワックスデー」と称し、夕方、全職員で職員室の清掃、ワックスがけを行い一斉に退勤する。職員に好評であり、効果があった。
- 管理職への報告は、校長と教頭が同時に聞く体制を取り、効率化を図った。
- 詳細な復命書を廃止した。
- 仕事の最低基準ラインを設定し、完璧を求めすぎないことを指示した。
- 業務の効率化実現に向けたアイデアボックスの設置。
- 全教職員を対象とした「業務改善に関する教職員アンケート」を実施した。
- 県の「働き方改革コーディネーター研修会」参加者による町主催の研修会を実施した。